



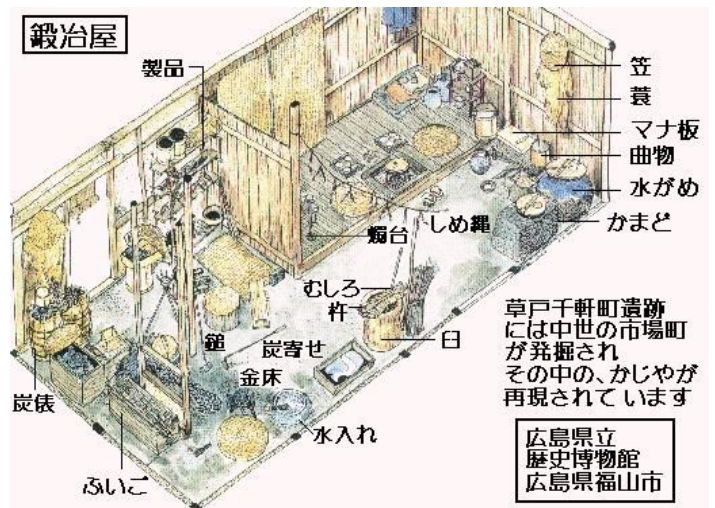
『 草戸千軒 』

J R福山駅の北西にある広島県立歴史博物館には中世の鍛冶屋の仕事場が復元されています。ふいご・金床・火床（ほど）・炭俵、今にも鍛冶屋のおじさんが出てきそうに思われます。これは福山駅の西を南北に流れ瀬戸内海に注ぐ芦田川の中州に鎌倉時代から室町時代にかけて存在した、中世の町の遺跡で当時の庶民の暮らしを偲ばせます。博物館には数件の民家が復元されています。

この町はもともと中州にあったわけではないのですが、大正末期から昭和初期にかけての河川改修工事で川の流れを付け替えた結果、遺跡の中心部が中州として孤立することになりました。江戸時代中頃に書かれた本（備陽六郡志＝びようろくぐんし）には『昔、芦品（あじな）郡・安那（あな）郡あたりまで海であったころ、本庄村の青木の端から五本松の前までの中島に草戸千軒町という町があった（後略）』と書かれていますが、幻の町として、これまで確認されていませんでした。昭和36年に初めて発掘が行われ、以来数次の調査により全容が明らかになったのです。

この遺跡からは陶磁器のかけら・宋銭・井戸や船着き場など色々なものが出土しています。草戸千軒の町は、海上交通・河川交通・陸上交通の交わる芦田川の河口近くにあります。そのため、芦田川下流域から福山湾岸にかけての地域経済の拠点として、さまざまな物資がこの町に持ち込まれ、取引されていました。また、漆塗りや鍛冶などの手工業生産に従事する職人も、この町を活動拠点にしていました。こうして、多くの物や人が集まる町には、お金も集まってきました。お金を貸して利子を取る、金融業に携わる人もいました。このように、草戸千軒の町は商工業の盛んな、にぎやかで活気あふれる町だったのです。

ちなみに、古代からの港として、又鍛冶屋の町としても有名な鞆はここから、芦田川沿いに南下約10km、瀬戸内海に面しています。



参考ホームページ <http://www.mars.dti.ne.jp/~suzuki-y/kusado.html>

参考図書 草戸千軒 松崎寿和 学生社 昭和43年
広島県立博物館 図録

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！